



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、県内で初めて一般財団法人全日本野球協会(BFJ)の国際審判員試験に合格し、これから世界を股にかけての活躍が期待される福島県野球連盟県北支部の高橋進也さんにインタビューしました。

🐰 審判員を目指したきっかけは？

高校3年の時、けがで最後の大会に出られず、私の高校野球は不完全燃焼で終わりました。社会人になってからもそのことが忘れられず、何かの形で野球に携わりたいという思いから、28歳の時、県野球連盟県北支部に志願して審判員になりました。そのうち、甲子園球場や東京ドームなど、憧れの地でのジャッジを思い描くようになり、審判員として活動の幅を広げるため、国際審判員を目指して認定試験に挑みました。

🐰 活動内容は？

3月中旬〜11月中旬に、小学生から中学生、高校生、そして社会人の試合で県内外問わず審判をしています。昨年は東京ドームで、アマチュア野球の最高峰である都市対抗野球大会でジャッジす



福島県野球連盟県北支部
高橋 進也さん

ることができました。国際大会は平成27年WBSC(世界野球ソフトボール連盟)U-18野球ワールドカップ(大阪市開催)や平成28年WBSC U-15野球ワールドカップ(いわき市開催)でジャッジしました。

🐰 やりがいは？

大きな大会でのジャッジは名誉なことですが、一番はどんな試合でも大好きな野球を誰よりも近くで見られて、それに携われることです。全力でプレーしている選手たちに対して、私も全力でジャッジをする。「審判は100%正しいジャッジをするのが当たり前」が自分の信条で、そのために野球規則を読み込み「ストライク」などのコールや動きに磨きをかけなければと日々感じています。

🐰 大切にしていることは？

試合は、休日だけでなく平日もあります。週末、家にいることが少ない私に、妻や子どもたちは寂しいと言わず「がんばって」の言葉を掛けてくれます。休日、平日問わず、試合に送り出してくれる家族、また勤務先の会社の皆さんには感謝の気持ち

🐰 今後の展望は？

8月にパナマで開催されるWBSC U-15野球ワールドカップで、海外で行われる国際大会に初めて臨みます。選手として抱いていた夢は叶わなかったけれど、審判員として大きな舞台に立てます。県野球連盟では、審判員が不足しているのが現状です。国際大会で活躍する姿を知ってもらうことで、審判員に興味を持つってくれる人が一人でも増えてくれたらうれしいです。

そして、地元・福島市で開かれる東京2020オリンピック競技大会の野球競技でジャッジしたいという大きな夢も抱いています。



▲都市対抗野球大会でジャッジする高橋さん